

標準委員会 システム安全専門部会 定期安全レビュー分科会  
第 16 回 (P6Ph2SC16) 議事録

1. 日 時 2012年9月18日 (火) 13:30～17:00

2. 場 所 日本原子力技術協会 A・B会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 平野主査 (JNES)、岡本副主査 (東大) (途中から出席)、成宮幹事 (関電)、伊藤委員 (JNES)、上野委員 (MRI)、倉本委員 (NEL)、左藤委員 (関電)、中村 (武) 委員 (JAEA)、藤本委員 (JNES)、服部委員 (原電)、平川委員 (原技協) (11名)

(欠席委員) 青山委員 (保安院)、中村 (隆) 委員 (阪大)、渡辺 (哲) 委員 (中部電)、渡辺 (沖) 委員 (東電) (4名)

(常時参加者) 勝木 (北陸電)、重久 (九電)、安田 (関電)、矢野 (原技協) (4名)

(傍聴者) 本間 (東北電)、田中 (関電)、森松 (関電)、石合 (電発)、石倉 (電発)、三山 (NEL) (6名)

4. 配付資料

P6Ph2SC16-1 第 15 回 PSR 分科会議事録 (案)

P6Ph2SC16-2-1 人事について (定期安全レビュー分科会)

P6Ph2SC16-2-2 定期安全レビュー分科会名簿

P6Ph2SC16-3-1 福島事故後の原子力安全向上に必要な PSR のあり方と内容  
～今までの議論からの整理～

P6Ph2SC16-3-2 PSR にかかる論点 (候補)  
～今までの PSR 分科会などにおける議論から～

P6Ph2SC16-4 IAEA SAFETY GUIDE DS426 Draft7 訳その 3

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 15 名中 10 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録について (P6Ph2SC16-1)

成宮幹事より、前回議事録の紹介があった。5.議事内容(4)、(5)について一部文言修正の上、承認された。

(2) 人事について (P6Ph2SC16-2-1,2)

成宮幹事より、以下の人事案件が紹介され、審議の結果、新常時参加者が承認された。また、退任常時参加者の報告があった。

- ・ 常時参加者の承認【承認事項】  
古賀 薫（電源開発株）
- ・ 退任常時参加者【報告事項】  
鞍本 貞之（電源開発株）

### (3) PSR の今までの議論における論点（P6Ph2SC16-3-1,2）

成宮幹事より、第 13 回～第 15 回本分科会、第 16 回～第 18 回システム安全専門部会での議論における意見から整理した、福島事故後の原子力安全向上に必要な PSR のあり方と内容に係る論点について紹介があった。

- ・ PSR により達成すべき目的を書き下し、そこから不足箇所、不要箇所が見えてくる。具体的な検討を行うこと。
- ・ 日々継続して実施する保安活動と定期的実施する PSR、各々の位置付けを明確にする必要がある。日々の活動は努力していても完璧ではない、PSR はそれを定期的にレビューするもので、そこに意義がある。

### (4) 最新の技術的知見における評価方法

安田常時参加者より、PWR 電力の場合を例に、これまでの PSR における最新の技術的知見における評価方法について紹介があった。

- ・ 反映を検討すべき知見の範囲が **minimum requirement** に留まっている。1988 年に制定された米国の SBO 規則、1999 年の仏国ルブレイエ発電所における洪水事象の経験を取り込むことができなかった。
- ・ 反映を検討すべき知見の範囲を拡げるとともに、深掘りを行うことについて検討が必要。

### (5) IAEA の PSR ガイド（P6Ph2SC16-4）

倉本委員より、IAEA SAFETY GUIDE DS426 Draft7 の要約について、前回からの引き続き部分（5 章、付録 I 及び付属文書の Safety Factor の 14 個のうち、後半の 7 個）の紹介があった。

- ・ **World Standard** との整合という観点から、DS426 の箇条に記載の内容を参考にしつつ、本分科会における検討を進めて行く。現行の PSR 標準との対比整理を行い、抜け漏れの有無を確認する。
- ・ **Safety Factor** 毎に、関連する IAEA の SAFETY GUIDE への適合性を確認するという整理も可能ではないか。

### (6) その他

- ・ 次回 PSR 分科会日程について、11 月 14 日（水）午後を開催することとなった。（場所未定）

以 上